

1

解答解説のページへ

$\alpha$  は  $0 < \alpha < \pi$  を満たす実数とする。 $xy$  平面において、 $y = \sin x$  のグラフと  $y = \sin(x - \alpha)$  のグラフの交点のうち、 $x$  座標が正で最小のものを  $P$  とおく。次の問いに答えよ。

- (1)  $P$  の座標を  $\alpha$  を用いて表せ。
- (2)  $P$  の  $x$  座標を  $c$  とする。曲線  $y = \sin x$  ( $\alpha \leq x \leq c$ )、曲線  $y = \sin(x - \alpha)$  ( $\alpha \leq x \leq c$ ) と直線  $x = \alpha$  とで囲まれた図形を  $x$  軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積  $V(\alpha)$  を求めよ。
- (3)  $\alpha$  が  $0 < \alpha < \pi$  の範囲を動くときの  $V(\alpha)$  の最大値を求めよ。

2

解答解説のページへ

$p, q$  を実数とする。3 次方程式  $x^3 - 3x^2 + px + q = 0$  は 1 個の実数解  $b$  と 2 個の虚数解をもつとする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 虚数解の 1 つを  $\alpha$  とするとき、 $\alpha$  と共役な複素数  $\bar{\alpha}$  がもう 1 つの虚数解であることを示せ。
- (2)  $\alpha$  の実部を  $r$  とする。  $|\alpha - \bar{\alpha}| = |\alpha - b| = 2\sqrt{3}$  のとき、  $|r - b|$  を求めよ。
- (3) (2) の仮定の下で、可能な実数の組  $(p, q)$  をすべて求めよ。

3

解答解説のページへ

次の問いに答えよ。

- (1)  $1 < m \leq n$  を満たす自然数  $m, n$  に対し、次の不等式が成り立つことを証明せよ。

$$\int_m^{n+1} \frac{dx}{x} < \sum_{k=m}^n \frac{1}{k} < \int_m^{n+1} \frac{dx}{x-1}$$

- (2)  $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k}$  の整数部分を求めよ。ただし、実数  $x$  に対して  $a$  が  $x$  の整数部分であると、 $a$  が整数であって  $a \leq x < a+1$  が成り立つことをいう。また、正の実数  $x$  の自然対数を  $\log x$  とし、 $\log 2 = 0.69$ ,  $\log 3 = 1.10$ ,  $\log 2020 = 7.61$  とする。

4

解答解説のページへ

座標空間内に 3 点  $A(\sqrt{3}, 0, 0)$ ,  $B(0, 3, 0)$ ,  $C(-\sqrt{3}, 0, 0)$  をとる。△ABC の重心を通り  $xy$  平面に垂直な直線を  $l$  とする。また、点  $P(p, q, r)$  は、 $r > 0$ ,  $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AP} = 0$ ,  $\overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{CP} = 4$  を満たしているものとする。次の問いに答えよ。

- (1)  $p$  および  $r$  を  $q$  を用いて表せ。また、 $q$  がとり得る値の範囲を求めよ。
- (2) 線分  $BP$  の中点を  $M$  とする。また、 $l$  上に点  $N$  を  $\overrightarrow{BP}$  と  $\overrightarrow{MN}$  が垂直になるようにとる。N の座標を  $q$  を用いて表せ。
- (3) N の  $z$  座標が最小になるときの  $q$  の値を求めよ。

1

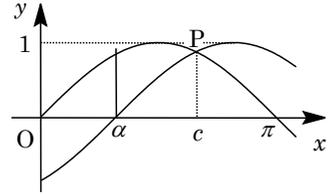
問題のページへ

- (1)  $0 < \alpha < \pi$  のとき、 $y = \sin x \cdots \cdots \textcircled{1}$  と  $y = \sin(x - \alpha) \cdots \cdots \textcircled{2}$  を連立して、

$$\sin x - \sin(x - \alpha) = 0, \quad 2 \cos\left(x - \frac{\alpha}{2}\right) \sin \frac{\alpha}{2} = 0$$

$$0 < \frac{\alpha}{2} < \frac{\pi}{2} \text{ から } \sin \frac{\alpha}{2} \neq 0 \text{ となり, } \cos\left(x - \frac{\alpha}{2}\right) = 0$$

$$x - \frac{\alpha}{2} = n\pi + \frac{\pi}{2} \quad (n \text{ は整数})$$



すると、 $x$  が正で最小のものは  $x = \frac{\pi}{2} + \frac{\alpha}{2}$  となり、このとき①から、

$$y = \sin\left(\frac{\pi}{2} + \frac{\alpha}{2}\right) = \cos \frac{\alpha}{2}$$

よって、①と②のグラフの交点  $P$  の座標は  $P\left(\frac{\pi}{2} + \frac{\alpha}{2}, \cos \frac{\alpha}{2}\right)$  となる。

- (2)  $c = \frac{\pi}{2} + \frac{\alpha}{2}$  として、 $\alpha \leq x \leq c$  において、①と②のグラフおよび直線  $x = \alpha$  とで囲まれた図形を  $x$  軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積を  $V(\alpha)$  とすると、

$$\begin{aligned} V(\alpha) &= \pi \int_{\alpha}^c \sin^2 x \, dx - \pi \int_{\alpha}^c \sin^2(x - \alpha) \, dx \\ &= \pi \int_{\alpha}^c \left\{ \frac{1 - \cos 2x}{2} - \frac{1 - \cos 2(x - \alpha)}{2} \right\} dx \\ &= -\frac{\pi}{2} \int_{\alpha}^c \{ \cos 2x - \cos 2(x - \alpha) \} dx = \frac{\pi}{2} \cdot 2 \sin \alpha \int_{\alpha}^c \sin(2x - \alpha) \, dx \\ &= \pi \sin \alpha \left[ -\frac{1}{2} \cos(2x - \alpha) \right]_{\alpha}^c = -\frac{\pi}{2} \sin \alpha \{ \cos(2c - \alpha) - \cos \alpha \} \\ &= -\frac{\pi}{2} \sin \alpha \{ \cos(\pi + \alpha - \alpha) - \cos \alpha \} = \frac{\pi}{2} \sin \alpha (\cos \alpha + 1) \end{aligned}$$

- (3)  $0 < \alpha < \pi$  において、(2)から、

$$\begin{aligned} V'(\alpha) &= \frac{\pi}{2} \{ \cos \alpha (\cos \alpha + 1) + \sin \alpha (-\sin \alpha) \} = \frac{\pi}{2} (2 \cos^2 \alpha + \cos \alpha - 1) \\ &= \frac{\pi}{2} (2 \cos \alpha - 1)(\cos \alpha + 1) \end{aligned}$$

すると、 $V(\alpha)$  の値の増減は右表のようになり、 $V(\alpha)$  の最大値は、

$\alpha$	0	...	$\frac{\pi}{3}$	...	$\pi$
$V'(\alpha)$		+	0	-	0
$V(\alpha)$		↗		↘	

$$V\left(\frac{\pi}{3}\right) = \frac{\pi}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \left(\frac{1}{2} + 1\right) = \frac{3}{8} \sqrt{3} \pi$$

[解説]

回転体の体積を題材とした微積分の基本題です。計算量は標準的です。

2

問題のページへ

- (1)  $p, q$  を実数として、3次方程式  $x^3 - 3x^2 + px + q = 0 \cdots \cdots \textcircled{1}$  に対し、虚数解の1つを  $\alpha$  とするとき、 $\alpha^3 - 3\alpha^2 + p\alpha + q = 0$  が成り立ち、

$$\overline{\alpha^3 - 3\alpha^2 + p\alpha + q} = \overline{0}, \quad \overline{\alpha^3 - 3\alpha^2 + p\alpha + q} = 0, \quad (\overline{\alpha})^3 - 3(\overline{\alpha})^2 + p\overline{\alpha} + q = 0$$

これより、 $\overline{\alpha}$  も  $\textcircled{1}$  を満たし、 $\textcircled{1}$  の2個の虚数解は  $\alpha$  と  $\overline{\alpha}$  である。

- (2)  $\alpha$  の実部を  $r$ 、虚部を  $s (s \neq 0)$  とすると、 $\alpha = r + si$ 、 $\overline{\alpha} = r - si$  となる。  
ここで、 $|\alpha - \overline{\alpha}| = |\alpha - b| = 2\sqrt{3}$  より、 $|2si| = |(r - b) + si| = 2\sqrt{3}$  となり、

$$|s| = \sqrt{3}, \quad \sqrt{(r - b)^2 + s^2} = 2\sqrt{3}$$

これより、 $(r - b)^2 + 3 = 12$  となり、 $(r - b)^2 = 9$  から  $|r - b| = 3$  である。

- (3) 3次方程式  $\textcircled{1}$  に対して、解と係数の関係を適用すると、

$$\alpha + \overline{\alpha} + b = 3 \cdots \cdots \textcircled{2}, \quad \alpha\overline{\alpha} + b\alpha + b\overline{\alpha} = p \cdots \cdots \textcircled{3}, \quad \alpha\overline{\alpha}b = -q \cdots \cdots \textcircled{4}$$

ここで、(2) から、 $s = \pm\sqrt{3}$ 、 $r - b = \pm 3$  (複号任意) なので、

- (i)  $r - b = 3$  のとき  $\alpha = b + 3 \pm \sqrt{3}i$ 、 $\overline{\alpha} = b + 3 \mp \sqrt{3}i$  (以下、複号同順)

②より、 $2(b + 3) + b = 3$  から  $b = -1$  となり、 $\alpha = 2 \pm \sqrt{3}i$ 、 $\overline{\alpha} = 2 \mp \sqrt{3}i$

③より  $p = (4 + 3) + (-1) \cdot 4 = 3$ 、④より  $q = -(4 + 3) \cdot (-1) = 7$

- (ii)  $r - b = -3$  のとき  $\alpha = b - 3 \pm \sqrt{3}i$ 、 $\overline{\alpha} = b - 3 \mp \sqrt{3}i$  (以下、複号同順)

②より、 $2(b - 3) + b = 3$  から  $b = 3$  となり、 $\alpha = \pm\sqrt{3}i$ 、 $\overline{\alpha} = \mp\sqrt{3}i$

③より  $p = 3 + 3 \cdot 0 = 3$ 、④より  $q = -3 \cdot 3 = -9$

(i)(ii)より、 $(p, q) = (3, 7)$ 、 $(3, -9)$  である。

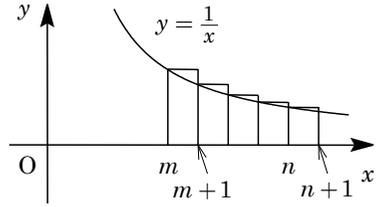
### [解説]

3次方程式についての基本的な問題です。上の解法では、解と係数の関係がポイントになっています。

3

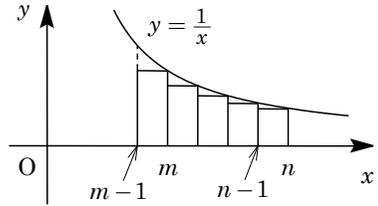
問題のページへ

- (1) 単調に減少する関数  $y = \frac{1}{x}$  に対し、 $1 < m \leq n$  を満たす自然数  $m, n$  をとり、右上図において面積を比較すると、



$$\int_m^{n+1} \frac{dx}{x} < \frac{1}{m} + \frac{1}{m+1} + \dots + \frac{1}{n} = \sum_{k=m}^n \frac{1}{k}$$

同様に、右下図から、



$$\int_{m-1}^n \frac{dx}{x} > \frac{1}{m} + \frac{1}{m+1} + \dots + \frac{1}{n} = \sum_{k=m}^n \frac{1}{k}$$

さて、 $x = t - 1$  とおくと、 $dx = dt$  となり、

$$\int_{m-1}^n \frac{dx}{x} = \int_m^{n+1} \frac{dt}{t-1}$$

さらに、 $\int_m^{n+1} \frac{dt}{t-1} = \int_m^{n+1} \frac{dx}{x-1}$  であることに注意すると、

$$\int_m^{n+1} \frac{dx}{x} < \sum_{k=m}^n \frac{1}{k} < \int_m^{n+1} \frac{dx}{x-1} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

- (2) まず、①より、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} = 1 + \sum_{k=2}^{2020} \frac{1}{k} < 1 + \int_2^{2021} \frac{dx}{x-1}$  となり、

$$\int_2^{2021} \frac{dx}{x-1} = [\log|x-1|]_2^{2021} = \log 2020 - \log 1 = 7.61$$

これより、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} < 1 + 7.61 = 8.61 \dots\dots\dots \textcircled{2}$

また、①より、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} = 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{2020} + \sum_{k=3}^{2019} \frac{1}{k} > 1.5 + \frac{1}{2020} + \int_3^{2020} \frac{dx}{x}$  となり、

$$\int_3^{2020} \frac{dx}{x} = [\log|x|]_3^{2020} = \log 2020 - \log 3 = 7.61 - 1.10 = 6.51$$

これより、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} > 1.5 + \frac{1}{2020} + 6.51 = 8.01 + \frac{1}{2020} > 8.01 \dots\dots\dots \textcircled{3}$

②③より、 $8.01 < \sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k} < 8.61$  となるので、 $\sum_{k=1}^{2020} \frac{1}{k}$  の整数部分は 8 である。

**[解説]**

(1)は有名な面積比較による不等式の証明です。それを利用して(2)の整数部分を求めるわけですが、不等式①はストレートに利用することはできず、右側の不等式から試行錯誤が必要になります。ただ、その手掛かりは与えられていて、 $\log 3$  と  $\log 2020$  の値が対応します。 $\log 2$ の値は必要ありませんでしたが……。

4

問題のページへ

- (1)
- $A(\sqrt{3}, 0, 0)$
- ,
- $B(0, 3, 0)$
- ,
- $C(-\sqrt{3}, 0, 0)$
- ,
- $P(p, q, r)$
- に対して,

$$\overline{AB} = (-\sqrt{3}, 3, 0), \quad \overline{AP} = (p - \sqrt{3}, q, r), \quad \overline{CP} = (p + \sqrt{3}, q, r)$$

$$\overline{AB} \cdot \overline{AP} = 0 \text{ から } -\sqrt{3}(p - \sqrt{3}) + 3q = 0 \text{ となり, } p = \sqrt{3}q + \sqrt{3}$$

$$\overline{AP} \cdot \overline{CP} = 4 \text{ から } (p - \sqrt{3})(p + \sqrt{3}) + q^2 + r^2 = 4, \text{ すなわち } p^2 + q^2 + r^2 = 7 \text{ より,}$$

$$3(q+1)^2 + q^2 + r^2 = 7, \quad r^2 = -4q^2 - 6q + 4$$

ここで,  $r > 0$  から  $-4q^2 - 6q + 4 > 0$  となり,  $2q^2 + 3q - 2 < 0$  より,

$$(q+2)(2q-1) < 0, \quad -2 < q < \frac{1}{2}$$

このもとで,  $r = \sqrt{-4q^2 - 6q + 4}$  である。

- (2) 線分 BP の中点 M は
- $M\left(\frac{p}{2}, \frac{q+3}{2}, \frac{r}{2}\right)$
- となり,
- $\triangle ABC$
- の重心
- $(0, 1, 0)$
- を通り

$xy$  平面に垂直な直線  $l$  上の点 N は  $N(0, 1, z)$  と表せるので,

$$\overline{BP} = (p, q-3, r), \quad \overline{MN} = \left(-\frac{p}{2}, \frac{-q-1}{2}, z - \frac{r}{2}\right)$$

ここで,  $\overline{BP} \cdot \overline{MN} = 0$  より  $-\frac{p^2}{2} - \frac{(q-3)(q+1)}{2} + rz - \frac{r^2}{2} = 0$  となり, (1) から,

$$2rz = p^2 + q^2 - 2q - 3 + r^2 = 7 - 2q - 3 = -2q + 4$$

よって,  $z = \frac{-q+2}{r} = \frac{-q+2}{\sqrt{-4q^2 - 6q + 4}}$  から,  $N\left(0, 1, \frac{-q+2}{\sqrt{-4q^2 - 6q + 4}}\right)$  である。

- (3)
- $-2 < q < \frac{1}{2}$
- において,
- $z = \frac{-q+2}{\sqrt{-4q^2 - 6q + 4}} = \sqrt{\frac{(2-q)^2}{2(q+2)(1-2q)}}$

ここで,  $f(q) = \frac{(2-q)^2}{(q+2)(1-2q)}$  とおき, 両辺に対数をとると,

$$\log f(q) = 2\log(2-q) - \log(q+2) - \log(1-2q)$$

$$\begin{aligned} \frac{f'(q)}{f(q)} &= -\frac{2}{2-q} - \frac{1}{q+2} + \frac{2}{1-2q} \\ &= \frac{11q+2}{(2-q)(q+2)(1-2q)} \end{aligned}$$

すると,  $f(q)$  の増減は右表のようにな

$q$	-2	...	$-\frac{2}{11}$	...	$\frac{1}{2}$
$f'(q)$		-	0	+	
$f(q)$		↘		↗	

り,  $z = \sqrt{\frac{f(q)}{2}}$  から,  $q = -\frac{2}{11}$  のとき N の  $z$  座標は最小になる。

### [解説]

空間ベクトルが題材になっていますが, 上の解答例は, その意味を考えずに, 計算で押し通したものです。ただ, 計算量はやや多めです。